

## 第64回全国学校保健研究大会報告

日 時 : 平成26年11月6日、7日

場 所 : 石川県地場産業振興センター

### 第10課題 喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育

#### 研究協議の内容

1. 喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育に関する指導計画の作成、実施、評価及び改善について
2. 小学校、中学校、高等学校における喫煙、飲酒、薬物乱用防止教室の進め方
3. 学校、家庭及び地域社会が連携した喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育の進め方について

#### 講演

「ライフスキル形成を基礎とする喫煙、飲酒、薬物乱用防止教室」

神戸大学大学院 教授 川畑徹朗 先生

古典的な喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育は、健康影響に関する知識を提供する「知識中心型」の教育であり、動物実験などを見せて恐怖心を引き起こす「脅し型」の教育であり、これらの教育はほとんど効果がなく、逆にそうした行動を助長する場合さえあった。思春期には、親の影響力は低下する一方で友人の影響が強くなる時期であり、友人の行動や態度は危険行動の直接的あるいは間接的きっかけとなりやすい。また、マスメディアも大きな影響を与える。この様な背景を踏まえて、今は、ライフスキル教育の考え方を大幅に取り入れた教育が行われている。(目標設定スキル、ストレス対処スキル、自己主張的コミュニケーションスキル、セルフエスティーム、意思決定スキルなど) 学校で行われる喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育は、これらを防止するために行われることはもちろんであるが、学校教育の基本的目標である「生きる力」の形成に寄与するものでなければならない。

#### 指導助言

青少年の喫煙や飲酒、薬物乱用は、その他の様々な問題行動とも関連が深いと言われている。自分自身の価値観や存在感が感じられず「自分はどうなっても構わない」といった自尊心の低さが、様々な問題行動に結びつく。従って、様々な工夫を施し自尊心の向上を図ることが未然防止への対策となる。その方法として、児童生徒自身の主体的な活動を取り入れたり、仲間と協力してやり切る満足感、できたことを賞賛し認めていくといった、学習や活動の中で自尊心を育てる方法や、保護者や地域から見守られている実感を味あわせ、社会の一員であることを学びとらせ、自分が大切な一人である実感を積

み重ねて、家庭や地域との連携の中で自尊心を育む方法がある。

#### 研究発表

##### 金沢市立大浦小学校

「たばこ」に焦点をあて「害を知る」、「身を守る方法を知る」、「家庭や地域に働きかける」という、発達段階を踏まえた実践活動を行っている。学習内容を踏まえて、受動喫煙防止ポスター（家族の前ではすわないで…）を作成し、家庭や地域の医療機関や銀行、商店街に掲示する取り組みを行い、子供たちが自分で作成し、地域へ発信したという主体的な行動によって自身を持つことや責任感につながることを目的とした取り組みを行っている。

##### 川口市立芝西中学校

教科等を横断的に絡め、基本的な考えを生徒の自尊心の向上に置き、調べ学習、標語コンクール、ロールプレイングなど、生徒が活躍できる活動を実践している。断り方のロールプレイングでは、大人が誘い役になり全生徒が悪い誘いを断る体験が出来る様、工夫されており、受身の教室から主体的な教室へ変わってきている。

##### 福井県立坂井農業・坂井高等学校

はじめての喫煙年齢は中学校2年生が一番多く、中学校3年生、高校1年生と続き喫煙経験者全体の約55%を占めており、一人でも喫煙を始める生徒を減らしたいという気持ちで取り組んでいる。断り方のロールプレイングもシナリオから生徒が考え、そのロールプレイングをお互いに評価するなど、生徒の主体性を生かした活動を行っている。

## 1. 全国学校保健研究大会

日時：平成26年11月6（木）・7日（金）

場所：石川県立音楽堂・石川県地場産業振興センター

### ◎全体会講演

「学校における健康教育を未来に生きる子供たちのために」

聖心女子大学文学部教育学科 教授 植田 誠治先生

授業の中で、「健康」というテーマで、児童生徒に絵を描いてもらった実例をあげられた。力こぶ、太陽が笑っている絵、ハート、スポーツ、てんびんの絵などがよく描かれるようで、心理的・情緒的な分析をすることができるそうだ。

### ◎課題別研究協議会(第8課題 学校環境衛生)

快適な学校環境づくりを目指す学校環境衛生活動の進め方

#### ○研究発表

環境衛生に関心を持ち、進んで快適で安全な環境づくりができる子の育成

ー計画的・組織的な学校環境衛生活動の実践ー

岐阜県瑞穂市立本田小学校 養護教諭 高橋和子先生

「チーム学薬」が組織されており、学校薬剤師会と養護教諭が中心となり、保健委員会、給食委員会、美化委員会を組み入れ、組織的に学校環境衛生活動に取り組んだ活動が紹介された。

学校環境衛生活動の徹底を図るための取組について

ー関心の高まりと活動の充実を求めてー

石川県小松市立中海中学校 養護教諭 中山由佳先生

環境衛生だよりの発行や日常点検の見直しなどの活動が紹介された。

生徒が主体的に取り組む学校環境衛生活動の在り方

ー生徒とつくる学校環境衛生活動ー

岩手県立盛岡第二高等学校 養護教諭 佐竹麻衣子先生

文化祭の時の来校者アンケート調査で「校舎の清掃が必要」との意見が寄せられ、生徒保健委員を中心とした活動が紹介された。学校薬剤師などを講師にした生徒保健委員研修会を開催している。生徒保健委員の任期が1年の為、また、生徒も教員も毎年メンバーが入れ替わるため、記録方法や情報共有の仕方を工夫していきたいそうだ。

#### ○指導助言

快適な学校環境づくりを目指す学校環境衛生活動の進め方

千葉県教育庁学校安全保健課 主査 春田洋平先生

3人の研究発表に対して活発な質疑応答が行われました。組織の連携、情報共有、継続が大切とまとめられました。

#### ○講義

学校環境衛生活動と化学物質教育

岐阜薬科大学 教授 永瀬久光先生

学校で使用する化学物質の安全な使用方法や保管管理について学校環境衛生活動を通じて会得する事は、家庭での利用についても啓発、改善が期待できると話されました。

学校給食現場でのボトル詰の弱酸性次亜塩素酸水の使用で、開封後もボトルに表示されている濃度はいつまでも維持されているものと信じて使用していた例や、インフルエンザ対策として二酸化塩素ガスを使用した例など紹介され、学校薬剤師は、化学物質の専門家なので、是非活用してもらいたいと話されました。学校薬剤師側も頻繁に学校を訪れ、化

学物質が使用されている現場をチェックする必要があると思いました。

環境省ホームページ <http://www.env.go.jp/chemi/communication/guide/>の「かんたん化学物質ガイド」シリーズを紹介されました。ダウンロードできるので、学校での講話時に役立つと思われます。



## 2. 全国学校薬剤師大会

日時：平成26年11月6日（木）

場所：ANA クラウンプラザホテル金沢

○特別講演「“食”から子供の健康を考える」～漢方の立場から～

北陸大学薬学部医療薬学講座 教授 劉 園英先生

日本の食品添加物の認可数が、他国と比べて多いのにびっくりしました。日本：338品目、アメリカ：140品目、イギリス：14品目、北欧：0品目だそうです。

冬でも、冷たい飲料水をガブ飲みするような生活を避け、冷えを改善する食事をする必要があると思いました。

第65回全国学校薬剤師大会および全国学校保健研究大会は平成27年11月12日（木）・13日（金）に宮崎県で開催される予定。